

地域安全 安全安心まちづくり粕屋地区
速報 セフティタウン須恵

～ひったくりにご用心！！～

今年の4月末現在、16件発生

●年別発生状況

平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年 4月末現在
34	29	93	70	121	127	16

●市・町別発生状況（本年4月末現在）

須恵	古賀	宇美	篠栗	志免	新宮	久山	粕屋	計
2	1	2	0	5	2	0	4	16

●被害の状況

被害にあっている人は、全員女性で被害状況の16件中、
・バッグなどを手に持っていたり、肩にさげているときが12件
・自転車のカゴに入れているときが4件となっています。また、発生時間帯は、ほとんど18時から23時の間です。

●次のことに注意しましょう。（被害防止のポイント）

- ①夜間の一人歩きはさけて、明るい道を通る。
- ②後方から近づく、自転車やオートバイなどに注意する。
- ③現金などの貴重品は身につけて、バッグは車道の反対側に持つ。
- ④自転車の前カゴにバッグなどを入れるときは、防犯ネットを使用するか、バッグなどの上に雑誌や新聞を置く。
- ⑤被害にあったら、「泥棒」と大声で助けを求め、すぐ110番する。

●防犯ブザーは、粕屋警察署内の防犯協会で購入できます（1個600円）。

●問合せ先 粕屋警察署・粕屋地区防犯協会
☎939-0110（内線261・262）



『風水害に備えて』集中豪雨にご用心！

毎年6月下旬から7月中旬にかけて梅雨前線が活発に活動し、また台風が接近・上陸するため、洪水などによる災害が起こりやすくなります。

被害が生じました。粕屋南部消防本部管内でも、昨年7月19日の0時から7時までの7時間に166mm（1時間雨量52mmを観測）という集中豪雨により、宇美川の決壊や住家の損壊、床上・床下浸水が広範囲にわたって発生しました。役場や消防署、消防団などの防災関係機関は、風水害時における相互の連絡体制を見直し、

訓練などを実施していますが、大規模な災害により広範囲にわたる被害が発生した場合には、防災関係機関による活動が困難を極めることが予想されます。台風や大雨などの自然災害は、私たちの手で抑えることはできなくても、被害は正しい知識と事前の備えによって軽減できます。「自分の身は自分で守る」という防災の基本に立ち戻り、今一度身の回りを見つめ直し、見ましよう。

- 台風や大雨の情報をキャッチしたらこんな安全対策を！
- ① テレビやラジオで流される気象注意報や警報、町の防災行政無線、消防署、消防団の広報などに十分注意する。
 - ② 川の水の水位は、豪雨のとき一気に上昇するので、日頃からよく観察し、いざというときに備える。（土のうを積んで浸水防止を図る）
 - ③ 停電に備えて懐中電灯や携帯電話を用意する。
 - ④ 外出からは早く帰宅し、勤務先の家族と連絡を取り、非常時に備える。
 - ⑤ 日頃から、避難するときのために携行品（非常食など）や家族それぞれの氏名票（住所・氏名・血液型）などを準備しておく。
 - ⑥ 避難するときは動きやすい服装で、あわてず落ち着いて行動し、あらかじめ確認しておいた避難路を選んで避難場所まで行く。
 - ⑦ 特にお年寄り、子ども、病人、体の不自由な人などには、家族の人ばかりでなく、近所の人も気配りをして、早めに避難するよう心がける。

19年目の須恵川美化作業

須恵町体育協会（安河内昌士会長）が、4月11日（日）に須恵川の美化作業を行いました。

同協会による、この須恵川の美化作業は、今回で19回目を迎えました。作業には、同協会の会員418人と、第三小学校の校長先生と生徒30人などが参加して行われました。

「柿の葉が大きゅうなると、どうしても、あぶつてかもの味が思い出されますやなあ」。

スズメダイ科・硬骨魚の塩漬のことである。沖縄の海からやってきた稚魚が初夏、南日本の近海や岩礁で体長15cmぐらいに成長すると、こげ茶の体色と丸い目がスズメを連想させ、この名がついた。

体形が矢の風切りに似ているので対馬ではカジキリといい、



博多でアブツテカモと呼ばれる

ふるさとのことば ⑩ 「あぶつてかも」

のは、火にあぶつて骨ごとバリバリ噛んで食べるからだ。おかしな名前の博多名物である。

明治のころには「あぶつてかもはよごごつしよう」と物売りがふれ歩き、戦前までは魚屋ではなく八百屋さんに樽詰めで売られていた。これを弁当箱のおかずにした子供が隣の子の卵焼き、かまぼこを横目にべそをかいたという話を聞く。

だが、昭和30年（1955）ころ、さる高級料亭のお女将が「もつとうまいものはないか」という客の注文に、「これを出し「珍味だ」とほめられ、いろいろ博多の名物料理になったとか。メニューを見てカモ料理と勘違いする客もいるらしい。

冒頭の言葉は、この魚の脂が濃いので皿を汚さないように、その旬のころ、ちょうど大きくなる柿の若葉を皿のかわりに使った、という昔の名残である。

ところで某日、古老宅で食した感想は、身よりも骨ばかりで「これがなぜ…」と首をひねるばかりだった。

毎週 水・金 曜日の朝（10:00～12:00）は 65才以上

申込み・問合せ先 須恵町 社会福祉協議会 ☎933-2160

ボランティアセンター1階（定員30名 自己負担 1回300円）

16日(水) 介護予防事業 6月のメニュー	18日(金) 軽体操で転倒予防 (ころばないために) 藤本 先生	23日(水) つづり織 柴田 裕史 先生	25日(金) ハンドベルと 懐かしい唱歌 近藤 美奈緒 先生	30日(水) ほのぼの体操 高濱 裕生 先生
2日(金) 介護予防事業 7月のメニュー	7日(水) ワイドマグネット ラック 柴田 裕史 先生	9日(金) フリマ アレンジメント 矢野 由紀 先生	14日(水) 布のさくらアート 「春色のほおずき」 梅野・沖田	